

令和5年度 浦庄小学校 学校経営方針



1 校訓 「興道」

※休まず 心をこめ 力をあわせて やりとげよう
（『校訓「興道」の心』 近藤克弘 元校長 から）
「続けて ていねいに みなで ともにのびていこう」

2 学校教育目標

「校訓『興道』のもと、人間性豊かでたくましく生きる力をもった児童を育成する」
～「聴く・話す・学び合う」ことで『深い学び』を実現する～

3 めざす児童像・めざす学校像・めざす教師像

【めざす児童像】

- 自分に必要なことに気づき、こつこつとがんばる子
 - ・自分が今必要なことは発達段階により違いがあるが、病気になったならその病気を治すことに専念するように、自分が今した方がよいことの判断ができ取り組めたら、それはその子のためになる。
 - ・自分に必要なことにこつこつと取り組んで、自分のものとして進める力がもてる子どもに育ててほしい。これは、キャリア教育にもつながる。
- 友達とともに伸びる子
 - ・自分も友達も大切に思い、集団生活の中で伸びていく子を育てたい。学び合うとはそういうことだと思う。そのためにも「ありがとう」と言い合える人間関係を育ててほしい。
- 健康で明るく元気な子
 - ・ぱっと前向きに、過信でなく自信をもち、元気にあいさつできる子どもを育てたい。そのためにもPBSの観点から子どもを一日に一度はほめられるようにしてほしい。ちょっとしたボランティアこそほめやすい。各学級で「1分間ボランティアタイムなど」に取り組んでほしい。

【めざす教師像】

- 子ども一人一人の可能性を引き出す教師
 - ・子どもも先生も「共に伸びる学校」にしたい。そのためにはまず先生方が健康で元気でいてほしい。そして、子どもの信頼を勝ち取り、子ども一人一人の良さを引き出してほしい。
- 児童・保護者・地域の願いを実現する教師
 - ・ハラスメントのない安心して働ける職場にしたい。「ありがとう」と言い合える職員室。子どもたちのモデルとなるような集団、職員室でありたい。そんな職員室であれば共感を呼び、人は集まる。そうすると、人々の願いを知り、一歩が踏み出せる。
- 授業で勝負する教師
 - ・教材研究をしっかりとする。ギガスクールにも立ち向かう。わからないことは、一人で悩まずに、たずねあう。授業のはじまりは、子どもの責任。終わりは教師の責任。時間を守る。

【めざす学校像】

- 笑顔やあいさつがあふれる学校
- 家庭・地域から信頼される学校
- 共に伸びる学校(新設)
- 美しく安全で安心できる学校

4 経営方針

(1) 児童一人一人の個性・特性の伸長を図る活動の充実

① 一人一人の児童が、自分の子ども（家族）と思って対応を。

・4月は信頼強化月間。普段なんでもない言葉が子どもにつきささる。

一言一言に気をつけたい。

② 児童と向き合い、楽しく、わかる授業の実践を。（浦庄スタイル、ICTの活用推進）

③ 心の教育の積極的な推進（人権教育、道徳教育、特別支援教育の充実）

(2) 情報を共有し、創意工夫して組織で対応

① 報告、連絡、相談を徹底し、組織内で情報を共有する。

（組織で徹底、ほう・れん・そう）

・（校外への）提出書類は必ず期限を守る。

・提出書類は管理職に一度提出。気になることは報告・連絡・相談。

② 風通しのよい職場環境づくり（児童や職員の話題があふれる職員室）

③ 個人で悩みを抱え込まない。（言いにくいこと、悪い情報こそ速やかに報告を）

・近くの席の同僚と相談。近くの教室の同僚と相談。助け合って進めていく。

④ 厳しい状況の時こそ、プラス思考で。

（アイデア・意見の尊重・みんなの気づきを結集）

・校務分掌に過小・過多はつきもの。のりしろのある取組をする。重なった部分は助け合い、進めていく。

(3) 信頼される学校づくりの推進

① 児童が安全・安心に生活できる学校づくり（新型コロナ対策の継続、ポジティブ支援）

② 家庭・地域との緊密な連携（不登校、いじめ、虐待等の未然防止）

③ 「教職員の誇りと自覚」を高める取組（職場をあげて不祥事防止!!）

④ 働き方改革の推進（効果的な教育活動を持続的に行うことができるように）

教職員の健康があつてこそ、早めの休養、メンタルヘルスの保持増進。

（休みたいときに休める職員集団、いつも「お互い様」です。）

子どもの教育のための働き方改革で。優先順位を決めて仕事に取り組んでほしいです。

※スクール・サポート・スタッフの効果的な活用

※校務支援システム、GIGAスクール構想への柔軟な対応を

5 本年度の重点目標

(1) 学びのかけ橋プロジェクトを推進する

～昨年度までの取組をもとに、幼・小・中の連携を深める～

(2) 「浦庄スタイル」をすべての学年の子どもに定着させる

～学年に応じた「聴き方・話し方・話し合い方」ができる～

(3) 校内研修を充実させ、授業改善の取組を進める

～教材研究をしっかりとした授業を行い（公開も含む）、指導技術を高める～

(4) ICTを活用し「わかる授業」を展開する

～子どもの興味・関心を高めて効果的な学習を行う～

※AIDリルの活用, プログラミング教育の研究・実践

(5)元気にあいさつを交わし, 学校生活をスタートさせる

～登校時, 誰もが大きな声であいさつができるようにする～

(6)運動に親しませ, 一人一人の体力の向上に努める

～外遊びの奨励と水泳や陸上の指導で子どもの運動能力を伸ばす～

(7)思いやりの心をもち, 自他を大切にできる気持ちを育てる(ボランティア精神を育てる)

～「ありがとう」と言える機会を増やし, 子どもの自尊心を高め, 自他を大切にできるようにする～

(8)基本的な生活習慣を身に付け, 健康的な生活ができるようにする

～保護者と連携し, 各家庭でも望ましい生活習慣を身に付けられるようにする～

6 学校教育活動の評価・改善(アンケートは前期・後期の2回)

学校評価アンケートや生活アンケート等をもとに, 評価・改善を行う。

達成目標(生活アンケート 児童)

項目	R 5	R 4(目標)
○学校は楽しい		97%
○自分から進んであいさつをしている		95%
○授業中, 先生や友達の話が聴くことができている		95%
○授業中, 進んで発表している(手を挙げています)		80%
○協力して, まじめに掃除している		97%
○「ありがとう」とよく言われる		新設

「主体的で対話的な深い学び」と言われるが, 「自分が今必要なことに気づき, 少しずつこつこつとがんばれる
=主体的。共に伸びる=対話的学びにもつながる。」生活の考え方や授業が結びつくとよい。

※働き方改革の推進

1か月あたりの平均時間外在校等時間 45時間(県教委目標値)

ノー残業デー(全員18時までに退庁日)を設けたい。

チーム浦庄

誰もが参画し, 議論し, 助け合う, 風通しのよい教職員組織